

WHO news September 2022

2022年9月1日

[Half of health care facilities globally lack basic hygiene services – WHO, UNICEF](#)

Half of health care facilities worldwide lack basic hygiene services with water and soap or alcohol-based hand rub where patients receive care and at toilets in these facilities, according to the latest Joint Monitoring Programme (JMP) [report](#) by WHO and UNICEF. Around 3.85 billion people use these facilities, putting them at greater risk of infection, including 688 million people who receive care at facilities with no hygiene services at all.

WHO、ユニセフ：世界の医療施設の半数が基本的な衛生サービスを欠いている

WHO とユニセフによる共同モニタリング計画 (JMP : Joint Monitoring Programme) の最新報告によると、世界の医療施設の半数が、患者がケアを受ける場所や施設内のトイレで水や石鹸、アルコールベースの手指消毒などの基本的な衛生サービスを行っていないことが明らかになりました。

このような施設を利用する人は約 38 億 5000 万人で、感染のリスクが高く、その中には衛生サービスが全くない施設でケアを受けている人も 6 億 8800 万人います。68 % の医療施設ではポイントオブケアに衛生設備があり、65 % ではトイレに水と石鹸を備えた手洗い設備があるものの、両方を備えているのは 51 % のみで、したがって基本的衛生サービスの基準を満たしていることとなります。さらに、世界の医療施設の 11 分の 1 (9 %) は、どちらも備えていません。

最新レポート「医療施設における WASH の進捗 2000 - 2021 年 : WASH と感染予防・管理の特別な焦点」では、汚染された手指や環境が、医療施設における病原体の伝播や抗菌薬耐性の拡大に大きな役割を担っていることを指摘しています。

水と石鹸を使った手洗いや環境浄化へのアクセスを向上させるための介入は、感染予防・制御プログラムの基礎となり、特に安全な出産など、質の高いケアを提供するために極めて重要です。

2022年9月1日

[Dietary and inhalation exposure to nano- and microplastic particles and potential implications for human health](#)

Microplastic in the environment is an emerging contaminant that has generated intense public concern. Questions have been asked about the human health impacts of the exposure to microplastic particles, from the polymers themselves to the monomers as well as additives used to make the plastic material, adsorbed chemical contaminants and associated biofilms. Recognizing this, WHO has reviewed the state of evidence on microplastic in drinking water and published a report assessing the risks to human health in August 2019..

ナノ・マイクロプラスチック粒子の食事および吸入暴露とヒトの健康への

潜在的影響

環境中のマイクロプラスチックは、社会の強い関心を呼んでいる新たな汚染物質です。ポリマーそのものからモノマーだけでなく、プラスチック材料を作るために使用される添加物、吸着した化学汚染物質、関連するバイオフィルムまで、マイクロプラスチック粒子への曝露による人間の健康への影響について大きな懸念が投げかけられています。

このことを認識し、WHO は飲料水中のマイクロプラスチックに関するエビデンスの状況を見直し、2019年8月に人間の健康へのリスクを評価する報告書を発表し、さらに、国際的な専門家グループの支援を受け、2021年12月までに公表された利用可能なデータを集めて検討し、環境からのマイクロプラスチック粒子への曝露による人の健康へのリスクを評価しました。

報告書では、曝露と影響の両方に関するデータの質、信頼性、関連性を評価し、ナノ・マイクロプラスチック粒子 (NMP : nano - and microplastic particles) のリスク評価への寄与の可能性を検討しました。しかし、利用可能なデータのうち人の健康に対する NMP のリスク評価に利用できるものは非常に限られていることが示されました。これらの作業の結果、WHO は研究ニーズを特定し、現在の不確実性に対処するためにマイクロプラスチック粒子について今後に必要な作業範囲を定義しました。

2022年9月2日

[Lead in drinking-water: Health risks, monitoring and corrective actions](#)

Lead is a priority chemical hazard that should be included in national drinking-water quality standards and monitored as part of drinking-water quality surveillance.

This document provides practical guidance to support the assessment and management of lead contamination in drinking-water supplies. Step-wise guidance is provided to support action when elevated lead concentrations are detected in drinking-water. It also explains why lead in drinking-water is an important issue and sources of lead exposure in water supplies..

飲料水中の鉛：健康リスク、監視、是正措置

鉛は公衆衛生上大きな懸念のある化学物質として認識されており、飲料水を含む環境中のあらゆる鉛の発生源から人間がさらされる量を減らすことが必要です。

本書は、飲料水中の鉛汚染の評価と管理を支援するための実用的なガイダンスを提供しています。飲料水中に高濃度の鉛が検出された場合の対応を支援するため、段階的なガイダンスが提供されており、また、飲料水中の鉛がなぜ重要な問題であるのか、そして水道水中の鉛の暴露源についても説明されています。

2022年9月5日

[Celebrating sexual health for benefits throughout life](#)

Sexual health is relevant throughout a person's life, through to adolescence and into older age. The World Health Organization (WHO) [working definition of sexual health](#) addresses not only physical health, but embraces a positive and respectful approach to sexuality and sexual relationships.

世界性の健康デー：生涯を通じて利益をもたらす性の健康、国際疾病分類に初めて「性的健康」の章が

9月4日は「世界性の健康デー」です。今年の世界性の健康デーのテーマは「Let's Talk Pleasure」です。

性的健康は、思春期から高齢期まで、人の一生を通じて関係するものです。世界保健機関（WHO）の性的健康の作業定義は、身体的健康だけでなく、セクシュアリティと性的関係に対する積極的かつ尊重的なアプローチを包含しています。

2022年2月、WHO、HRP、パートナーは、セクシャル・ヘルス・プログラムの設計において、病気のリスクだけでなく、性的な喜びを考慮する必要性についての分析を発表しました。このシステムティックレビューとメタ分析では、性的快感は、セックスに関する知識を向上させ、コンドームの使用などより安全なセックスの実践を取り入れるための重要な成功要因になり得ることが示されました。

性的幸福は、性的尊重、性的快楽、性的自尊心、性生活における自己決定など、さまざまな方法で概念化することができます。特に性的な幸福を向上させることを目的とした介入が出現しています。大きな出来事としては、国際疾病分類（ICD）の最新版で、初めて「性的健康」の章が設けられたことが挙げられます。

また、子どもや若者にとって適切かつ安全な学校外での包括的性教育（CSE）プログラムのためのガイドランスを作成しました。

一方で、世界的に、多くの女性、少女、そしてジェンダーに多様性を持つ人々が、合意のない暴力的な性行為を経験し続けています。WHOとHRPは、あらゆる形態の性的暴力の結果を予防し、管理するための世界中の国家的努力を支援しています。

2022年9月5日

[Nothing for us, without us: new film series on people living with noncommunicable diseases and mental health conditions](#)

WHO is dedicated to advancing the meaningful engagement of people living with NCDs and mental health conditions worldwide, and has recently established a range of activities and platforms to support this goal. The latest is a new film series on the topic in all six UN languages.

Watch the entire 30-minute documentary, “Nothing for Us, Without Us: listening and learning from people with lived experience”, on WHO's YouTube channel:

WHO : 「非感染性疾患や精神疾患とともに生きる人々に」 に関する新しい映画を公開

WHO は、非感染性疾患や精神疾患とともに生きる人々に関する新しい映画を公開しました。30 分間のドキュメンタリー「Nothing for Us, Without Us : Listening and Learning from People with lived experience」の全編は、WHO の YouTube チャンネルでご覧いただけます。(英語版 : <https://www.youtube.com/watch?v=Ms6BrG-RJJI>)

2022 年 9 月 8 日

[New strategies to tackle and end STIs epidemics](#)

The 75th World Health Assembly in May 2022 agreed to the implementation of the new [Global Health Sector Strategies on, respectively, HIV, viral hepatitis and sexually transmitted infections for the period 2022-2030 \(GHSS\)](#). The new strategies propose a common vision to end AIDS and the epidemics of viral hepatitis and STIs by 2030.

性感染症の蔓延に対処し、撲滅するための新たな戦略

性感染症 (STI : Sexually transmitted infections) は、世界中で高率の感染症を引き起こし続けています。

推計によると、世界中で毎日 100 万人以上の治癒可能な STI が感染しており、主に淋菌、クラミジア、梅毒、トリコモナス感染症が原因となっています。さらに、サル痘、赤痢菌、髄膜炎、エボラ出血熱、ジカ熱など性的接触によって感染する新たな感染症の発生や、リンパ肉芽腫などの顧みられてこなかった性病の再出現により、STI 予防・管理のための適切なサービス提供における課題が増加しています。

2022 年 5 月の第 75 回世界保健総会では、2022 年から 2030 年までの HIV、ウイルス性肝炎、性感染症それぞれに関する新しい世界保健セクター戦略 (GHSS : Global Health Sector Strategies) の実施に合意しました。

新戦略は、2030 年までに AIDS とウイルス性肝炎、STI の伝染病を撲滅するという共通のビジョンを提案し、GHSS は以下のような野心的な目標を掲げています。

- 梅毒、淋病、クラミジア、トリコモナスの新規感染者を減少させる。
- 先天性梅毒の新規感染者を削減する。
- 15 歳までにヒトパピローマウイルス (HPV) ワクチンの接種を完了した女兒の割合を増加させる。
- 優先集団と妊婦の間で梅毒のスクリーニングの割合を増加させる、優先集団の間で淋病のスクリーニングの割合を増加させる。
- 子宮頸がん検診を受ける女性の割合を増やす。
- WHO 淋菌抗菌剤サーベイランスプログラムに淋菌の抗菌剤耐性を報告する国の数を増加させる。

これを達成するために、GHSS は、高品質でエビデンスに基づく人間中心の STI サービスを提供し、STI データを作成し、コミュニティと市民社会を巻き込み、STI 予防診断・検査・治療のためのイ

ノベーションを推進することを推奨しています。

2022年9月8日

[WHO releases new module of the PrEP implementation tool on integration of STI services](#)

At the 23rd World Congress of the International Union against Sexually Transmitted Infections (IUSTI) WHO released a [new module of its implementation tool for HIV pre-exposure prophylaxis \(PrEP\)](#) to support countries implementing, and scaling up integrated STI services for people who use PrEP.

HIV 曝露前予防薬 (PrEP) 実施ツールの新しいモジュール

WHO は、第 23 回国際性感染症連合 (IUSTI) 世界大会において、HIV 曝露前予防薬 (PrEP : プレップ、Pre-Exposure Prophylaxis) 実施ツールの新しいモジュールを発表しました。このモジュールは、意思決定者、プログラムや施設の管理者、医療従事者に対し、地域の状況や PrEP 提供サービスの様式を考慮した性感染症 (STI) サービスの段階的統合のための枠組みと実践的なガイダンスを提供するものです。

HIV 感染に対する PrEP が必要な人々は、他の STI リスクも高いことが多く、世界的に見ると、それらの人達の 4 人に 1 人は、PrEP を始める前に少なくとも 1 つの STI、すなわち淋病、梅毒、クラミジアと診断されたことがあるのです。

STI は無症状であるため、検査を行わなければ、これらの感染の多くは見逃され、感染の連鎖が続くこととなります。

多くの STI が治療可能であることを考えると、PrEP を使用している人に STI サービスを提供することは、見逃してはならない機会です。

2022年9月8日

[WHO and partners launch a new online resource to advance STI vaccine development](#)

The first online portal on vaccine development for sexually transmitted infections (STIs) was launched today at the 23rd IUSTI World Congress. The portal, [STI Watch](#) contains technically sound and updated information on the most common STIs and the vaccine development status for each.

性感染症 (STI) のワクチン開発に関する初のオンラインポータル開設

第 23 回 IUSTI 世界会議において、性感染症 (STI) のワクチン開発に関する初のオンラインポータルが開設されました。このポータルサイト「STI Watch」には、最も一般的な STI とそれぞれのワクチン開発状況について、技術的に適確かつ最新の情報が掲載されています。

世界の STI 感染率は依然として高い水準にとどまっており、STI との闘いには革新的な技術が必要であり、安全で効果的な STI ワクチンの開発は、STI 予防に革命を起こす可能性を秘めています。

STI ウォッチは、WHO、米国アレルギー感染症研究所 (NIAID)、AIDS Vaccine Advocacy Coalition (AVAC) の共同作業で作成されたものです。WHO と NIAID は、他の主要なステークホルダーとともに、STI ワクチンの開発・導入のためのロードマップを作成しました。

ほとんどの STI は、症状が出ないために未治療のままです。未治療のまま放置されると、STI は簡単に他人に感染し、HIV のリスク増加、不妊、妊娠の予後不良、癌など、深刻な健康被害を引き起こす可能性があります。現在、STI に有効なワクチンが存在するのは、ヒトパピローマウイルス (HPV) と B 型肝炎ウイルスの 2 つのみです

このロードマップには、STI ワクチン開発を加速させるための次のステップを示したもので、新規ワクチンの公衆衛生上の必要性と価値の評価、望ましい製品特性の定義、ワクチンの開発・評価・ライセンス供与までの道のりの概要が含まれています。

2022 年 9 月 8 日

[WHO Director-General's keynote speech at Health20 Summit: “A new age of health multilateralism, partnership and equity” - 1 September 2022](#)

Current progress is a quarter of that required to achieve the SDGs by 2030.

Urgent action is needed to support countries to address these major health challenges and strengthen global health security.

To meet these global challenges, WHO is implementing five strategic shifts in our work to support countries:

Health 20 サミットで WHO 事務局長が基調講演

テドロス事務局長は、WHO 本部で開催された保健 20 サミットで、WHO が各国を支援するために実施している以下の 5 つの戦略的シフトについて講演しました。

1. 疾病の根本原因に取り組み、ジェンダー平等の強化や大気汚染・気候変動への対応など、多部門の連携によって良好な健康・福祉を実現する条件を整えることで健康を促進すること
 2. 保健医療システムをユニバーサル・ヘルス・カバレッジの基礎となるプライマリー・ヘルスケアに方向転換することにより、保健医療を提供すること
 3. 新たな法的拘束力のある国際協定や新たな金融仲介基金を含む、保健緊急事態への備えと対応のためのグローバルなアーキテクチャを強化することにより、健康を守ること
 4. 科学、研究、イノベーション、データ、デジタル技術を通じた健康への貢献
 5. グローバル・ヘルスを主導・監督する機関として、より強力な WHO を構築することにより、健康のためのパフォーマンスとパートナーシップを実現すること
-

2022年9月8日

[Training course on One Health in action against Neglected Tropical Diseases](#)

The World Health Organization (WHO) has published a [new online training module](#) that aims to support countries, international organizations, and partners to work together to identify common ground in order to maximize efforts to control and eliminate neglected tropical diseases (NTDs) based on the approach outlined in [WHO's flagship NTD Road map document](#).

顧みられない熱帯病に対するワンヘルスのトレーニングコース開設

WHOは、顧みられない熱帯病 (NTD) の制圧・撲滅に向けた努力を最大化するために、各国、国際機関、パートナーが協力して共通点を見出すための新しいオンライン研修モジュールを発表しました。

ワン・ヘルス・アプローチは、顧みられない熱帯病に持続的に対処し、「顧みられない熱帯病に対するロードマップ 2021 - 2030」で示された目標を達成するためには、ヒト、動物、環境の健康の関係が重要であると認識されているものです。

WHOは、「顧みられない熱帯病」との闘いを継続するため、一般市民からヒトや動物の健康管理者、プログラスマネージャー、国の代表、国際機関や非国家機関の代表まで、すべての関係者に「ワンヘルス」を実践するコースを受講していただくよう呼びかけています。

6つのコースがあり、ビデオ講義とダウンロード可能な資料で、自分のペースで学ぶことができます。

6つのすべてを受講することも、興味のあるモジュールだけを受講することも可能です。最終評価で 80 % 以上のスコアを獲得した受講者には、終了証が発行されます。

2022年9月8日

[WHO releases new repository of resources for air quality management](#)

This report is an output of discussions with the [United Nations Economic Commission for Europe](#), the [United Nations Environment Programme](#), the [World Meteorological Organization](#), and the [World Bank](#), offers general AQM tools such as a screening tool, which is a short, qualitative assessment to help countries evaluate the baseline of their AQMS and a more comprehensive survey to better understand gaps and AQMS areas that require more focus and resources.

WHO、大気質管理に関する新しいリソースのリポジトリを公開

現在、117カ国、6,700の都市やコミュニティで大気質がモニタリングされており、世界の99%以上の人々が、有害なレベルの微小粒子状物質にさらされています。

WHOの推定では、2019年の年間約700万人の早期死亡が環境および家庭の大気汚染の影響に起因したとされています。

新しいリポジトリは、国連機関や国際機関の大気質政策、モニタリング方法、資金調達機会、教育プ

プログラムに関連するツールやガイダンス文書をワン・ストップで提供することを目的としています。

2022年9月12日

[New fund for pandemic prevention, preparedness and response formally established](#)

The new [financial intermediary fund \(FIF\) for pandemic prevention, preparedness, and response \(PPR\)](#) was officially established by the FIF Governing Board at its inaugural meeting from 8-9 September 2022.

世界銀行、パンデミック予防・準備・対応のための新たな基金設立

感染症のパンデミック予防・準備・対応（PPR：pandemic prevention, preparedness, and response）のための新しい金融仲介基金（FIF：financial intermediary fund）が、2022年9月8日から開催されたFIF運営委員会の設立総会で正式に設立されました。

この基金は、中低所得国のPPR能力を強化し、国・地域・世界レベルでの投資と技術支援を通じて重要なギャップに対処するため、専用の長期追加資金を提供するものです。

想定する支援事業は、人獣共通感染症サーベイランスのほか、緊急時の連絡調整体制の構築などで、11月から提案の募集が開始される予定です。

FIFの理事会には、ソブリン・ドナーと実施国政府（共同出資者）、財団や市民社会組織（CSOs：civil society organizations）の代表が同じ割合で参加しています。

新しい基金は、全体の作業プログラムを設定し、資金調達の決定を行う運営委員会によって監督されます。

2022年9月12日

[World Suicide Prevention Day 2022](#)

[World Suicide Prevention Day \(WSPD\)](#) was established in 2003 by the [International Association for Suicide Prevention](#) in conjunction with the World Health Organization (WHO). The 10th of September each year focuses attention on the issue, reduces stigma and raises awareness among organizations, government, and the public, giving a singular message that suicide can be prevented.

世界自殺予防デー 2022

世界では、自殺で年間70万3千人が命を落としていると言われています。さらに、1人の自殺者に対し、20人の自殺未遂者がいると推測され、多くの人が真剣に自殺を考えています。

自殺による死は、周囲の人々に大きな影響を与える公衆衛生上の問題です。何百万人もの人々が強い悲しみに襲われ、自殺行為によって深刻な影響を受けています。

皆で意識を高め、自殺に対する偏見をなくし、十分な情報に基づいた行動を促すことで、世界中の自殺の事例を減らすことができるのです。

世界自殺予防デー（WSPD）は、2003年に国際自殺予防協会が世界保健機関（WHO）と共同で制定したものです。毎年9月10日に、この問題に注目し、スティグマを軽減し、組織、政府、一般市民の意識を高め「自殺は防げる」というメッセージを伝えています。

今年のスローガンは、“Creating hope through action（アクションを通じて希望を生み出す）”です。

2022年9月13日

[United Nations Inter-Agency Task Force on the Prevention and Control of Non-communicable Diseases: 2022–2025 strategy](#)

The strategy builds on the experience of the 2019–2021 strategy and the findings of the mid-point evaluation of the Global Action Plan for the Prevention and Control of NCDs 2013–2030. The strategy builds on the experience of the 2019–2021 strategy and the findings of the mid-point evaluation of the Global Action Plan for the Prevention and Control of NCDs 2013–2030.

非感染性疾患などの予防と制御に関する国連機関間タスクフォース： 2022 – 2025 戦略

非感染性疾患（NCD）の予防と制御に関する国連機関間タスクフォースは、NCDとメンタルヘルス状態に取り組む政府を支援するために、国連、各国政府、非国家主体間の協力のためのプラットフォームを提供する臨時組織です。

このタスクフォースは、2013年に国連事務総長によって設立され、毎年、経済社会理事会（ECOSOC）にその活動を報告しています。

この2022 – 2025年戦略では、WHO世界NCD行動計画に沿って、加盟国の行動計画の策定と実施を国連システム全体として継続的に支援するための方法を示しています。

2022年9月13日

[Pharmaceutical pricing policy, 2022](#)

Pharmaceutical pricing policies are interventions for managing the prices of pharmaceutical products. The technical brief describes how different pharmaceutical policies work, what factors should be considered in their use, which policies are adopted by the Member States in the South-East Asia region, and key recommendations to achieving affordable and equitable access to quality-assured pharmaceutical products for patients and health systems.

医薬品価格政策 2022

安全で高品質な医薬品を安価に入手することは、ユニバーサル・ヘルス・カバレッジを実現するた

めの核心となります。しかし、政府は、必要とする人々、とりわけ慢性疾患を持つ人々に救命医療製品へのアクセスを広く提供しようとする際、高い医薬品価格に悩まされています。医薬品価格政策とは、医薬品の価格を管理するための介入策です。

本テクニカルブリーフでは、さまざまな医薬品政策の仕組み、その利用において考慮すべき要素、東南アジア地域の加盟国が採用している政策、患者や医療システムにとって安価で質の保証された医薬品への公平なアクセスを実現するための主要な提言について解説しています。

2022年9月14日

[WHO launches guide to safely unlock benefits of the life sciences](#)

Today, WHO issued the [Global guidance framework for the responsible use of the life sciences](#). The Framework calls on leaders and other stakeholders to mitigate biorisks and safely govern dual-use research, which has a clear benefit but can be misused to harm humans, other animals, agriculture and the environment.

ライフサイエンスの責任ある利用のためのグローバル・ガイダンス・フレームワーク

ライフサイエンスとテクノロジーは、私たちの健康、社会、環境を改善する多くの機会を提供しますが、それらの開発・進歩は、実験中の事故や不注意、意図的な誤用によるリスクをもたらす可能性があります。

WHOは「ライフサイエンスの責任ある利用のためのグローバル・ガイダンス・フレームワーク」を発表しました。これは、バイオリスクを軽減し、デュアルユース（民間と軍事用途の双方）研究を管理するための国家的な枠組みや手法の開発に情報を提供する、世界初の技術的・規範的な枠組みです。

この枠組みは、バイオセーフティ、実験室バイオセキュリティ、デュアルユース研究の監視という3つの柱を核とするバイオリスク管理の発展・強化のための出発点として意図されたものです。異なる状況、資源、優先順位を考慮し、加盟国や他の利害関係者がそのニーズや視点に応じて適応できるように設計されています。

このガイダンスの目的は、人、動物、生態系の健康を最適化するための「ワンヘルス」アプローチにおけるバイオリスク管理の重要性に対する認識を高め、意思決定の指針となる一連の価値と原則を提供し、バイオリスク管理のためのツールやメカニズムを設定することで、バイオリスクとデュアルユース研究のガバナンスにおける問題と選択肢を説明するためのシナリオとケーススタディも掲載されています。

2022年9月14日

[WHO Director-General's opening remarks at the 72nd Session of the WHO Regional Committee for Europe – 12 September 2022](#)

WHO 欧州地域委員会での DG 挨拶

イスラエルで行われた WHO 欧州地域委員会でのテドロス事務局長の開会挨拶の概要は以下の通りです。

(1) この地域の人口の 3 分の 1 はワクチン未接種であり、その中には医療従事者の 25 %、高齢者の 20 % が含まれている。このようなワクチン接種の格差は、私たち全員にリスクをもたらす。

(2) COVID-19 もサル痘も、私たちと自然との関係から生じた脅威である。

(3) ロシアのウクライナ侵攻は、ウクライナの人々の心身の健康に壊滅的な影響を与え、その影響は今後数年にわたり続く。

ウクライナで COVID-19 の患者数が増加し（医療用）酸素不足が予想され、加えて、必要な予防接種の未了や戦争に関連した大規模な人口移動により、ポリオが国際的に蔓延する可能性があることを深く憂慮している。

WHO は過去 6 カ月間に 516 件の医療施設への攻撃により少なくとも 100 人が死亡、129 人が負傷していることを確認した。

(4) WHO の 5 つの優先課題

- 健康の促進 (Promoting health)
- 健康の提供 (Providing health)
- 健康の防御 (Protecting health)
- 健康の強化 (Powering health)
- 健康のための行動とパートナーシップ (Performing and partnering for health)

2022年9月15日

[WHO trains health workers in Ghana on air pollution and health](#)

The World Health Organization (WHO) is piloting a program to train health professionals as advocates for clean air policies and programs with the ultimate aim to protect and promote people's health and wellbeing. Health workers from all corners of Ghana met in Kumasi, Ashanti Region and provided input into the program design as the curriculum is scaled up. This successful pilot is expected to expand into a global program in 2023.

WHO、ガーナで大気汚染と健康について保健医療従事者を訓練

世界の 99 % の人が、WHO の大気質ガイドラインを超える空気を吸っています。地域や国によって大気汚染の影響は大きく異なり、特に中低所得国ほど大気汚染の影響を受けています。

2022年8月、国連総会は、地球上のすべての人が、きれいな空気、水、安定した気候を含む健康な環境を得る権利を有することを宣言する歴史的な決議を採択しました。

ガーナにおける大気汚染は、公衆衛生上の深刻な問題です。ガーナのPM 2.5の年間平均濃度(35 ug/m³)は、粒子状物質(PM)に関するWHOの世界大気質ガイドラインを大幅に超えています。2022年6月にガーナのクマシで、約50人の医療専門家が集まり、パイロットプログラムを試行体験しました。

彼らは、一連のトレーニングモジュールと複数の対話型セッションを試行体験し、保健医療従事者や彼らが対象とするコミュニティの協力者とともに、トレーナーとして活動するためのスキルと知識を身につけることができました。

この教材には、大気汚染と健康に関する入門的なモジュールと、循環器疾患や呼吸器疾患、大気汚染が子供や妊婦に及ぼす健康影響に取り組む臨床医向けの特別なモジュールが含まれています。

このパイロットプログラムの成功により、2023年には世界的なプログラムに拡大することが期待されています。

2022年9月15日

[COVAX: Key learnings for future pandemic preparedness and response](#)

This white paper outlines three key COVAX learnings for future pandemic preparedness and response. Drawing upon COVAX's unique experience enabling an unprecedented global rollout at scale during a pandemic, it highlights challenges encountered and subsequent impact on equitable access to COVID-19 vaccines, the actions COVAX took in response and recommendations for the future.

COVAX：今後のパンデミック対策と対応における重要な学習事項

COVAXは、Access to COVID-19 Tools Accelerator (ACT-A)のワクチンの柱として、パンデミックの初期に、所得レベルに関係なく、最も脆弱な世界中の人々がCOVID-19ワクチンにアクセスできるようにするために創設されたもので、4つの機関、すなわち感染症流行対策イノベーション連合(CEPI)、ワクチンと予防接種の世界同盟(Gavi)、世界保健機関(WHO)、国連児童基金(UNICEF)の専門知識とリソースを結集し、ワクチンへの公平なアクセスを通じて、生命と生活を保護するとともにパンデミックの急性期を迅速に終結させようとするものです。

COVAXのワクチン配布は2021年2月下旬に世界中で開始され、それ以来、このパートナーシップは146カ国、17億回分以上のCOVID-19ワクチンを届けています。

この白書では、今後のパンデミックへの備えと対応に関するCOVAXの3つの重要な学習事項を概説しています。

1. 公平なアクセスには、すべての段階において公衆衛生と最も脆弱な人々のニーズを中心としたエンドツーエンドのソリューションが必要
2. 買い占め、輸出制限、ナショナリズムへの対応
3. 世界的なパンデミック対策を成功させるには、(各国やその国民が、それぞれに)リスクを負うことも必要

2022年9月21日

[WHO responds to The Lancet COVID-19 Commission](#)

TWHO welcomes the overarching recommendations of *The Lancet* COVID-19 Commission's report on "Lessons for the future from the COVID-19 pandemic," which align with our commitment to stronger global, regional and national pandemic preparedness, prevention, readiness and response. At the same time, there are several key omissions and misinterpretations in the report, not least regarding the public health emergency of international concern (PHEIC) and the speed and scope of WHO's actions.

WHO、Lancet 誌の COVID-19 委員会に回答

WHO は、Lancet COVID-19 委員会の報告書「COVID-19 パンデミックからの未来への教（*）」の包括的な勧告に対して歓迎しつつも、いくつかの重要な脱落や誤解があることを指摘しています。

（*）Lancet COVID-19 委員会の報告書「COVID-19 パンデミックからの未来への教訓」の詳細は [The Lancet のサイトをご覧ください。](#)

2022年9月21日

[WHO calls for urgent action by countries for achieving Medication Without Harm](#)

Globally, half of all preventable harm in medical care is medication related, a quarter of which is severe or life-threatening. In the lead up to [World Patient Safety Day](#) on 17 September 2022, WHO is emphasizing the global burden of medication harm. The elderly population is one of the most at-risk groups of medication harm, especially those taking multiple medications. High rates of medication-related harm are also seen in surgical care, intensive care and emergency medicine.

WHO、「害のない投薬」の実現に向けた各国の緊急行動を呼びかけ

世界の医療における予防可能な危害の半分が薬物関連であり、その 4 分の 1 が重度または生命を脅かすものです。

2022年9月17日の「世界患者安全の日」に向けて、WHO は薬害の世界的な負担を強調しています。

投薬過誤に関連する世界のコストは、年間 420 億米ドル（2022年9月の平均為替レートで約 6 兆円）と推定されています。投薬過誤は、処方、転記、調剤、投与、モニタリングなどの業務に影響を及ぼす組織上の問題や、疲労、劣悪な環境条件、スタッフ不足などの人的要因によって起こります。これらの過誤は、深刻な損害、身体障害、さらには死亡につながることもあります。

「世界患者安全の日」は、国民の理解と関心を高め、各国が医療における安全性を促進することを目的とし、今年は特に薬物治療の安全性に焦点を当てて「Medication Without Harm（害のない薬物治療）」をスローガンとしています。

2022年9月21日

[Launch of the WHO guide for integration of perinatal mental health in maternal and child health services](#)

This new [WHO guide for integration of perinatal mental health in maternal and child health services](#) provides the best available information aimed at supporting MCH providers in identifying symptoms of mental health problems and responding in a way that is adapted to their local and cultural context.

母子保健サービスにおける周産期メンタルヘルスの一体化のための WHO ガイド

妊娠・出産・育児といった人生の転機は、女性やそのパートナーにとってストレスになることがあります。その結果、女性は精神的に不安定になったり、以前からあった精神状態が悪化したりすることがあります。ほぼ 5 人に 1 人の女性が、妊娠中または出産後の 1 年間に精神的な健康状態を経験することになります。

周産期の精神疾患を持つ女性のうち、20 % が自殺願望を抱いたり、自傷行為に及んだりし、メンタルヘルスを無視することは、女性の全般的な健康と幸福を危険にさらすだけでなく、乳児の身体的・精神的発達にも影響を及ぼします。

今回発表されたこの新しい WHO ガイドは、母子保健提供者がメンタルヘルス問題の症状を特定し、その地域や文化的背景に適応した方法で対応することを支援するために、実行可能な最善の情報を提供しています。

2022年9月21日

[Fourth WHO Global Evidence Review on Health and Migration stresses that equitable access to and appropriate use of antibiotics for refugees and migrants is essential to tackling Antimicrobial Resistance](#)

Over 1.27 million people worldwide die of bacterial Antimicrobial Resistance (AMR) yearly. Decades of misuse and overuse of antibiotics and other antimicrobials have made these drugs less effective in treating common infectious diseases, accelerating the emergence and spread of AMR.

難民・移民の薬剤耐性への取組み

薬剤耐性 (AMR) により、世界で年間 127 万人以上の人々が亡くなっています。抗生物質やその他の抗菌剤の数十年にわたる誤用、過剰使用により、これらの薬剤が一般的な感染症の治療に有効でなくなり、AMR の発生と蔓延を加速しています。

難民や移民の出身国での生活環境、移住の旅、入国・移民政策、受入国での生活・労働条件は、これらの人々の感染症に対する脆弱性を高め、抗生物質を適切に入手し、病気を治療する能力を困難にすることがあります。

彼らが世界的にどの程度適切な抗生物質にアクセスできるかは不明ですが、報告書は、地域全体で抗生物質へのアクセスと使用に対する最も一般的な医療システムの障壁にスポットライトを当てています。不適切・不十分な医療による抗生物質の不適切な処方、理解しやすい翻訳された資料や通訳サービスの欠如、医療サービスへのアクセスと抗生物質の入手と使用の障壁は、抗生物質の不必要または誤った使用につながる可能性があり、多くの場合、使用者の健康状態が悪化し、薬剤耐性病原体がさらに発生します。

本報告書では、難民・移民集団における抗生物質へのアクセスと適切な使用を改善し、世界的な AMR の発生を逆転させることに貢献するための一連の政策的考察 (AMR 対策のためのグローバルガバナンスを構築、難民や移民のための言語アクセシビリティとヘルスリテラシーの向上等) が提唱されています。

2022 年 9 月 21 日

[Rubella eliminated from Singapore](#)

Singapore has eliminated rubella, the World Health Organization (WHO) Regional Verification Commission for Measles and Rubella Elimination for the Western Pacific announced today.

シンガポールで風疹を撲滅

WHO 西太平洋地域 (WPRO) の麻疹・風疹撲滅地域検証委員会は、本日、シンガポールが風疹を撲滅したことを発表しました。

風疹は、小児および若年成人に多く見られるウイルス感染症で、世界中で妊婦および新生児の異常の主な原因とされており、感染した妊婦は流産や死産の危険にさらされ、発育中の赤ちゃんは難聴、白内障、心臓障害、知的障害など、生涯にわたって壊滅的な影響を与える先天性異常の危険にさらされます。風疹に特効薬は無いし、感染者のくしゃみや咳などの飛沫によって感染しますが、安全で有効かつ安価なワクチンによって感染を予防することができます。

これにより、西太平洋地域では「オーストラリア、ブルネイ、ダルサラーム、香港特別行政区 (中国)、マカオ特別行政区 (中国)、ニュージーランド、韓国、シンガポール」の 7 つの国と地域で、風疹の原因となるウイルス感染が抑止されました。

2022 年 9 月 21 日

[WHO at the high-level session of the 77th UN General Assembly \(UNGA\)](#)

The 77th session of the United Nations General Assembly (UNGA) will open on Tuesday, 13 September 2022 at the UN Headquarters in New York, in the first in-person format since the outbreak of the COVID-19 pandemic.

第 77 回国連総会ハイレベルセッションにおける WHO の活動

第 77 回 国連総会 (UNGA) は、2022 年 9 月 13 日 (火) にニューヨークの国連本部で、COVID-19 パンデミックの発生後初めて対面形式で開会されます。

WHO 関連イベントは以下の通りです。(詳細は、UN-WebTV などをご覧ください)

《9月20日》

- 結核撲滅のための世界目標達成に向けた進捗と多部門の行動
- 学校と学習環境におけるメンタルヘルスの促進と予防：世界の指導者とドナーへの緊急行動要請
- 難民と移民の健康促進：我々はエビデンスに基づいた政策立案への正しい道を歩んでいるか？

《9月21日》

- NCDs の予防と制御のための世界首脳グループの第 1 回年次会合
- NCD およびメンタルヘルス関連の SDGs 目標を達成するために、加盟国とともに、また加盟国のために
- ユニバーサル・ヘルス・カバレッジに関する第 3 回年次閣僚会議：プライマリー・ヘルスケア指向のアプローチを通じた保健システム強化に、資源および技術支援を活用する

《9月22日》

- 薬剤耐性に関する政治的リーダーシップと行動：2024 年の AMR に関する国連総会ハイレベル会合への道筋
- PMNCH 年次アカウンタビリティ・ブレイクファスト ラテンアメリカとカリブ海地域の女性、子供、青少年にとっての三大脅威である紛争、気候変動、COVID-19 への取り組み
- 国連健康長寿の 10 年 - 従来とは異なるビジネスのあり方

《9月23日》

- ワクチン、検査、治療への公平なアクセスを通じて COVID19 のパンデミックを終わらせるためのハイレベルイベント

2022 年 9 月 21 日

[World Rabies Day 2022](#)

This year's World Rabies Day theme is: *"One Health, Zero Death"*.

2022 年世界狂犬病デー

9 月 28 日は第 16 回 世界狂犬病デーです。

今年の世界狂犬病デーのテーマは「ワンヘルス、死亡者ゼロ」です。

【ワンヘルス One Health】

狂犬病制御プログラムは、One Health の実施の好例であり、これらを支える構造と信頼は、パンデミックが発生しやすいものを含む他の人獣共通感染症にとって重要です。

【死亡者ゼロ Zero Death】

「Zero by 30 : 2030 年までに犬が媒介するヒトの狂犬病 (※) による死亡を根絶するための世界

戦略計画」は、達成可能な目標を掲げた先進的な文書です。これは、国の医療システムにおいて統合された介入と NTD プログラムを優先する新しいロードマップに沿っています。

(※ 狂犬病は、20 の顧みられない熱帯病 NTDs のひとつ)

狂犬病のグローバル戦略計画とロードマップの両方で提唱されている統合アプローチは、現在の COVID-19 パンデミックで経験したように、多数の課題に直面して最適かつ協力して取り組むことの重要性を示しています。協力して力を合わせ、地域社会に関与し、犬へのワクチン接種維持を確約することにより、狂犬病を根絶することができます。

2022 年 9 月 26 日

[Health and care workforce in Europe: time to act](#)

All countries of the WHO European Region currently face severe challenges related to the health and care workforce (HCWF). This report focuses on identifying effective policy and planning responses to these HCWF challenges across the Region.

欧州の医療・介護労働力：行動を起こすべき時

欧州 WHO は、53 カ国にまたがる WHO ヨーロッパ地域の医療・介護労働力の現状を調査した報告書を発表しました。

多くの国が人材不足に直面しており、欧州 WHO は各国に対し、退職する医療従事者を補充するために、労働者の訓練、採用、定着について、状況を改善するよう呼びかけています。

COVID-19 に関連する燃え尽き症候群、健康障害、その他の一般的な不満のため離職する人の増加が予想されるため、定着率を高めるためのさらなる努力が必要だとしています。また、ヨーロッパの医療・介護従事者は高齢化が進んでおり、特に医師に関しては 44 カ国のうち 13 カ国では、少なくとも 40 % が 55 歳以上です。医療従事者に占める女性の割合は過去 10 年間で 42 % から 48 % へと増加しています。

報告書では、医療・介護従事者が抱える多くの課題に取り組むために、労働者を惹きつけ、維持するための健全なワーク・ライフ・バランスを促進する労働条件の整備や、労働力を支援するデジタルツールの活用を強化することなどを提言しています。

2022 年 9 月 26 日

[Heads of State commit to Noncommunicable Disease Global Compact to save 50 million lives by 2030](#)

Today, Dr Tedros Adhanom Ghebreyesus, Director-General of WHO, launched a new report calling on global leaders to take urgent action on noncommunicable diseases (NCDs), responsible for 17 million premature deaths every year.

各国首脳、2030 年までに 5,000 万人の命を救う非感染性疾患グローバル・コンパクトにコミット

WHO は、非感染性疾患 (NCDs) 予防のための首脳グループ「第 1 回年次会合」で、NCDs に対する緊急行動を世界の指導者に呼びかける新しい報告書を発表しました。また、この報告の発表と併せて、WHO の 194 カ国の NCD に関する全データをまとめたデータポータルサイトも初めて公開されました。

この報告書とポータルサイトは、世界的な NCD の負担の大きさ、危険因子、そしてこれらの病気や症状に対する各国の取り組みの進展に焦点を当てています。

NCD は、全世界の死亡原因の 4 分の 3 近くを占めており、毎年、70 歳未満の 1700 万人が NCD で死亡し、その 86 % が低・中所得国に居住しています。また、COVID-19 のパンデミックは、治療の遅れや中断によって NCD の負担をさらに悪化させています。

国連の全加盟国が 2030 年までに NCD による早期死亡を 3 分の 1 に減らすことを約束しており、これは数百万人の命を救うことができる取り組みですが、現在、達成に向けて進んでいる国はほとんどないのが現状です。

持続可能な開発目標 SDGs の達成と NCD による早期死亡の減少に向けて、軌道修正するための緊急の世界的な取り組みが必要です。

2022 年 9 月 26 日

[WHO launches comprehensive new modules on the Road map and Sustainability Framework to end NTDs](#)

WHO's OpenWHO education and training platform has published new online courses presenting the flagship neglected tropical disease (NTD) Road map strategy document and the accompanying Sustainability Framework.

OpenWHO に、顧みられない熱帯病 (NTD) に関する 2 つの新しいオンラインコース

WHO の教育・研修プラットフォームである OpenWHO は『顧みられない熱帯病 (NTD : Neglected Tropical Disease) ロードマップ戦略文書』と、それに付随する『持続可能なフレームワーク』を紹介する新しいオンラインコースを発表しました。

この 2 つのコースは、顧みられない熱帯病対策部 (WHO / NTD) が開発したもので、NTD の専門家やプログラムが今後 10 年間に直面するであろう重要な戦略目標や主要な課題について、包括的に学ぶことができるようになっています。

まず「新しい OpenWHO ロードマップ・コースでは、世界的な目標とマイルストーンを詳細に示し、それらを達成するための重要な戦略に焦点を当てて解説しています。これには、NTDs との闘いを国連の持続可能な開発目標と一致させるために「セクターを越えて活動する」という重要な原則が含まれています。コースは保健セクター内外の政策立案者、国家プログラムマネージャー、研究者、パートナー、ドナー、開発機関などを対象とした 8 つのモジュールで構成されており、WHO が現在優先的に取り組んでいる 20 の NTDs および疾患グループの予防、制御、排除、撲滅に焦点を当てた、それぞれ約 2 時間のオンライン学習コースです。

付随する「持続可能なフレームワークコース」は、プログラムマネージャー、主要パートナー、その他の関係者が、重要な NTD 関連の医療介入策の長期的な持続可能性を強化するために最適な環境を確保することを目的とし、NTD プログラムの持続可能性に影響を与える要因と、国のアクションプ

ランが持続可能性を促進するために必要なプロセスについて学ぶオンラインコースです。

2022年9月26日

[Collaborating for better global health: New Tripartite Operational Tools](#)

Greater collaboration across sectors is needed to protect everyone's health from the impacts of zoonotic diseases, as strongly reminded by recent emerging diseases with an animal origin. New operational tools are available to support countries in achieving this One Health collaboration in the field.

「ワンヘルス」コラボレーションの実現に向けて、各国を支援する新しい運用ツール

人獣共通感染症がもたらす影響の範囲は様々ですが、多くの国では、長期的かつ持続的なワンヘルスの協力体制を確保するためのメカニズムが不十分であることが示されています。こうしたギャップを埋めるために、国連食糧農業機関 (FAO)、世界保健機関 (WHO)、国際獣疫事務局 (WOAH) は、多部門間の調整メカニズムや監視・情報共有システムの確立を促進する新しい運用ツールを開発しました。

これらの運用ツールは、すでに存在する「共同リスク評価運用ツール」を補完するものです。新興感染症の影響は、公衆衛生や動物衛生の分野をはるかに超えて、ほとんどすべての分野に悪影響を及ぼしています。これらの衛生上の課題に対応するためには、複数の部門や専門分野が協力し合う必要があります。これは、調整メカニズムやサーベイランスだけでなく、国の保健システムの他の側面にも当てはまります。

2022年9月26日

[Key highlights from the UN General Assembly side event: Progress and multisectoral action towards achieving global targets to end TB](#)

Over a hundred people joined the UN General Assembly high level side-event: "Progress and Multisectoral Action towards achieving global targets to end TB" co-organized by the Government of Indonesia and the World Health Organization on 20 September 2022.

結核撲滅のための世界目標達成の進捗と多部門の行動 (国連総会サイドイベント)

9月20日にインドネシア政府とWHOの共催で国連総会サイドイベントが行われました。テドロス事務局長は、救命に不可欠な結核サービスを回復するための緊急行動、予防と治療へのアクセス向上と研究への投資の拡大、そして結核サービスをプライマリーヘルスケアに統合することを呼びかけました。

インドネシアの Budi Gunadi Sadikin 保健大臣は、将来世代の結核のない世界を実現するために、

各国、市民社会、産業界、国際機関が戦略的パートナーシップと協力を拡大し続けるよう促し、また、結核アジェンダの推進におけるインドネシアの G20 リーダーシップを強調し、結核のための投資と新しいワクチンの研究への投資を増やすよう呼びかけました。

各国の行動と進捗に関する最初のセッションでは、日本の日下英司氏（厚生労働省国際保健福祉交渉官）等から結核撲滅に向けた多部門の関与と説明責任の構築に向けた主要アクションが紹介されました。

続くセッションでは、イノベーションの展開や結核研究を含む、マルチセクター活動の維持・強化や結核の終焉に向けた進展に向けた主要パートナーの役割と貢献について、対話型のパネルディスカッションが行われました。

2022 年 9 月 26 日

[Launch of the Healthy Ageing Collaborative: Working together to improve the lives of older people their families and communities](#)

Today, we are proud to announce the Healthy Ageing Collaborative, a multisectoral and multistakeholder network to advance implementation of the United Nations (UN) Decade of Healthy Ageing (2021–2030).

ヘルシー・エイジング実現に向けて協働体を立ち上げ

国連の「健康な高齢化の 10 年」（2021 – 2030）の実施を推進するための多部門・多ステークホルダーによるネットワーク「ヘルシー・エイジング・コラボレイティブ」が発足しました。

「健康な高齢化の 10 年」の約束を実現するためには、政府、非政府組織、企業団体、慈善財団、大学が協力し合う必要があります。

WHO のテドロス事務局長は、国連総会のサイドイベントで行われたヘルシーエイジングコラボの発足式で「私は、国際的に活動しているすべての組織がこれに参加することをお勧めします。私たちが協力してそうすることで、徐々に寿命を延ばしてゆくことができます」と述べました。

協働体は、国家および非国家主体が、高齢者、その家族、そしてコミュニティの生活に影響を与える差し迫った問題に取り組むために、それぞれの強みを活かして協力する新しい機会を提供するものです。

なお、「ヘルシーエイジング 50：世界をより良い高齢化社会へ変革するリーダー」として、世界各国から 50 名が選出され、日本からは黒岩 祐治 神奈川県知事が選ばれました。

2022 年 9 月 26 日

[Report of the Regional Director : the work of WHO in the Western Pacific Region, 1 July 2021 - 30 June 2022](#)

Since 2006, WHO has worked with Member States in the Region to develop effective health security systems through the Asia Pacific Strategy for Emerging Diseases and Public Health Emergencies

(APSED III) and its two earlier iterations. In addition, For the Future: Towards the Healthiest and Safest Region, the shared vision for WHO work with Member States and partners in the Western Pacific, identified health security as one of its four thematic priorities. Implementation of these strategies/priorities has enabled the Region to launch a rapid and effective response to the COVID-19 pandemic.

西太平洋地域における WHO の活動報告 (2021.7.1~2022.6.30)

《報告書要旨》

WHO はこの 12 ヶ月間、様々な分野で加盟国を支援し、私たちが共有する「未来のために」ビジョンを推進するため、多くの活動を続けてきました。私たちは、非感染性疾患がもたらす負荷に取り組むための行動を拡大するために、加盟国と緊密に協力し、特にタバコの規制、栄養、そして昨年地域委員会によって承認された学校保健に関する革新的な地域枠組みの実施に引き続き取り組んでいます。そして、疾病の撲滅と制御の取り組みにおいて、脆弱で周縁化され支援が届きにくいグループに手を差し伸べるための「ラスト・マイル」を目指す努力を強化しています。また、COVID-19 の復興の一環として保健システムを強化しユニバーサル・ヘルス・カバレッジを進めるために、引き続き各国と緊密な連携を行っています。

私たちはさらに 2022 年の最初の 6 ヶ月間、職員の福利、組織の効率、職場文化を強化するための一連のイニシアチブにも着手しました。

この間、2 月にワークフォースに対して行われたコミットメントのうち、職場の虐待、ハラスメント、その他の不適切な行為を報告・対応するための既存のシステムの強化、内部プロセスの合理化と改善、より前向きで尊重し合い、包括的な職場文化の構築という 3 つの幅広い分野において、かなりの進展が見られました。

これらの継続的な取り組みが、現在そして将来にわたって加盟国に貢献する私たちの総合力を高めてくれると確信しています。

2022 年 9 月 28 日

[Ending the neglect to attain the sustainable development goals: a rationale for continued investment in tackling neglected tropical diseases 2021–2030](#)

This document sets out, therefore, to explain the socioeconomic value of investing in the fight against NTDs and highlights priorities for global investment attention. Our work was guided by the need not only for additional funding and funders but also for the need to understand the current funding climate, in which value for money and the efficient use of resources to fill the most critical of gaps are more relevant than ever.

2021 – 2030 年の顧みられない熱帯病への取り組みに対する継続的な投資の理論的根拠

WHO のハイレベル戦略文書である「持続可能な開発目標の達成に向けた怠慢の解消」において「顧みられない熱帯病に関するロードマップ 2021 – 2030」が 2020 年 11 月に承認、21 年 1 月に発

表されました。これは、顧みられない熱帯病 (NTDs) の 2030 年目標の達成に向けた、チャレンジングな道のりを描いています。

NTD2030 の目標達成に必要な進捗を加速するための資金調達は、グローバル協議においてその必要性を強調され、これまでも資源不足が NTD の制御、撲滅、根絶の大きな障壁と見なされてきました。この課題は、コロナウイルス感染症 (COVID-19) のパンデミックによってさらに強まり、実際、多くの公衆衛生目標の方向性が短期的にも長期的にも変化しています。

この提言文書は NTDs 対策に投資する根拠を示し、ロードマップの実施を支援するもので、これまでの複雑な資金状況や広範かつ多様な疾患との関連で、前例のない援助予算の削減と国際的な優先順位の変化という背景のもと、作成されました。

本書は、NTDs 対策に投資することの社会経済的価値を世界に向けて注目されるよう説明し、投資の優先順位を示すことを目的としています。

2022 年 9 月 28 日

[The WHO global infodemic manager community of practice is growing and tackling COVID-19, monkeypox and other outbreaks](#)

The WHO-trained infodemic managers, over 1300 of them from 142 countries, are already making great strides in Member States and together around the globe as a global community of practice.

WHO グローバルインフォデミックマネージャーのコミュニティが成長中

すべての疫病やパンデミックはインフォデミック (注) を伴い、誤報や偽情報を含む圧倒的な量の情報を理解し対処するために、公衆衛生に適用される新しいスキルセットが必要とされています。

そのために、WHO で研修を受けたインフォデミックマネージャーが 142 개국から 1,300 人以上が参画し、加盟国や世界的な実践共同体として、すでに大きな成果を上げています。

WHO が提供するツール、リソース、専門知識は、COVID-19 パンデミックの進展に伴い、より多くのインフォデミックマネージャーを世界的に養成するために利用できるようになっています。

現在までに、コミュニティは 3 回のグローバル・インフォデミック・マネージャー研修、いくつかの国別研修、COVID-19 ワクチン接種を支援するための包括的な研修を実施しました。100 時間を超える講義、ユニークなシミュレーション演習、インフォデミックマネージャーが自国のインフォデミックを追跡するための実用的なツールなど、多くのリソースが利用可能です。

研修後、修了生は情報やリソースを共有し、情報風土のシグナルを解釈することで、互いに助け合っています。

(注) インフォデミック：情報 (Information) と、感染症の広がりを意味するエピソード (Epidemic) を組み合わせた造語。噂やデマも含めて大量の情報がネットなどで氾濫し、社会に影響を及ぼす現象。

2022年9月28日

[New international instrument on pandemic prevention, preparedness and response: contributing to the second round of public hearings](#)

パンデミックの予防、準備、対応に関する新しい国際文書：第2回公開ヒアリングに向けて

HOの「万人のための健康の経済学に関する評議会」(WHO Council on the Economics of Health For All、世界で最も著名な10人の経済学者と保健医療専門家で構成)は、9月29日から開催される政府間交渉機関(INB)の第2回公聴会に向けて、新しい声明を発表しました。概要は下記の通りです。

1. Health for Allの達成を目標に、既存の資金を再調整する新しいパンデミック準備・対応財政(PPR)の構築が緊急に必要
2. 加盟国が次の5つの基本原則に基づく新しいガバナンスモデルを約束することが必要
 1. 包括性
 2. 普遍性
 3. 透明性と説明責任
 4. 相補性
 5. 各国のオーナーシップ
3. 加盟国のイノベーションガバナンスの新しいモデルへの本格的なコミット
4. 「Health for All」に対する考え方を、「あったらいいな」という慈善的な費用から、破滅的世界的健康危機から現在と将来の世代を守る「なくてはならない」共同投資へと転換すること

2022年9月28日

[Ask the expert: 10 questions on safe abortion care](#)

In July 2022, the World Health Organization (WHO) hosted a Twitter space with [Dr Bela Ganatra](#), head of the Prevention of Unsafe Abortion unit in the WHO Department of Sexual and Reproductive Health and Research (SRH), including HRP, on improving access to comprehensive abortion care everywhere.

専門家に聞く：安全な中絶のためのケアに関する10の質問

2022年7月、WHO性・生殖医療研究部(SRH)の安全でない中絶の防止ユニット責任者であるBela Ganatra氏を招いて、あらゆる場所における包括的な中絶ケアへのアクセス改善のためのツイッタースペースを開設しました。

以下の10の質問に対してGanatra氏が回答しています。

1. 中絶はどのくらい安全か？

2. 人々が中絶に関する誤った情報を避けるにはどうすればよいか？
3. 中絶の規制は中絶率を下げるか？
4. 結果を改善するために何が有効か？
5. 法律で認められているところでも、中絶を阻むものがあるのか？
6. 中絶医療へのアクセスで生じる公平性の問題とは？
7. アクセスを改善するために何ができるのか？
8. 家族計画に関するアドバイスは、中絶医療のどこで行われるのか？
9. 中絶や性と生殖に関する健康に、人権はどのように関わってくるのか？
10. 政策やサービス提供の指針となるべきものは何か？

2022年9月28日

[Joint statement of the United States of America and the World Health Organization on the U.S.-WHO strategic dialogue](#)

U.S. Department of Health and Human Services Secretary Xavier Becerra and World Health Organization (WHO) Director-General Dr Tedros Adhanom Ghebreyesus held the first U.S.-WHO Strategic Dialogue. Convened under the Biden-Harris Administration, the U.S.-WHO Strategic Dialogue provides a platform to maximize the longstanding U.S. government-WHO partnership, and to protect and promote the health of all people around the globe, including the American people.

戦略対話に関する米国と WHO の共同声明

米国保健福祉省の Xavier Becerra 長官と世界保健機関 (WHO) のテドロス事務局長は、第 1 回米・WHO 戦略対話を開催し、現在進行中の WHO の強化努力を含め、いくつかの優先的な世界的公衆衛生問題や協力・パートナーシップの領域について議論しました。

グローバル・ヘルス・アーキテクチャは、各国が国内、地域、そして世界の健康を向上させるために重要な機構、政策、法的手段から構成されています。このアーキテクチャの重要な側面は、パンデミックやその他の健康安全保障上の脅威を予防、検出、対応する能力です。ベセラ長官とテドロス事務局長は「国および世界の能力は、常に強力で、機敏で、改善され、目的に適合していなければならない」ことに合意しました。

また、新しいパンデミックインスツルメントの開発努力、的を絞った改正を含む国際保健規則 (IHR) の強化やワンヘルス監視能力の更新等についても議論され、このようなグローバルな健康安全保障の強化は、世界と米国民の健康を守るために不可欠であるとしてしました。そして米国と WHO は、世界が 2030 年までに持続可能な開発目標を達成するために、保健緊急事態への備えと対応の強化に加えて主要分野でのパートナーシップを強化することを再確認しましたが、その進捗は、必要なペースの 4 分の 1 程度にとどまっています。

進捗を加速させるには「将来の健康上の緊急事態に対応できる弾力的な保健システム」「ユニバーサ

ル・ヘルス・カバレッジを達成する手段としての統合的プライマリー・ヘルスケアへの方向転換」「包括的な保健・医療人材の育成とコミュニティへの関与への投資」「生活の質を高めるための環境と健康の関連性を認識した政策の推進」が必要となります。

米国と WHO は、世界の公衆衛生を改善・促進するために共にすべきことが多くあることを認識し、2023 年に技術専門家に、これらの共通の指導目標を支援する活動に焦点を当てた共同作業計画を含む、協力関係のさらなる発展を課すことを決定しました。

2022 年 9 月 29 日

[WHO and ILO call for new measures to tackle mental health issues at work](#)

New global WHO guidelines on mental health at work are reinforced by practical strategies outlined in a joint WHO/ILO policy brief.

WHO と ILO : 職場におけるメンタルヘルスの問題に取り組むための新たな対策を要求

うつ病や不安神経症により、年間 120 億日の労働時間が失われ、世界経済に 1 兆ドル近い損失を与えていると推定されています。

COVID-19 をきっかけに、世界中で一般的な不安やうつが 25 % 増加し、各国政府が、いかにメンタルヘルスへの影響に備えていなかったかが露呈し、メンタルヘルスのリソースが世界的に慢性的に不足していることが明らかになりました。

この問題に取り組むことを目的とした 2 つの新しい出版物、「職場におけるメンタルヘルスに関するグローバルガイドライン」と「WHO / ILO ポリシーブリーフ」が発行されました。

WHO の「職場におけるメンタルヘルスに関するグローバルガイドライン」では、過重な労働負荷、否定的な行動、職場で苦痛を与えるその他の要因など、メンタルヘルスのリスクに対処するための対策として、ストレスの多い職場環境を改善し、苦痛を感じている労働者に対応する能力を養うために、管理職のトレーニングについて、今回初めて推奨しています。

WHO / ILO ポリシーブリーフでは、政府、雇用者、労働者、そして官民の組織のための実践的な戦略という観点から、先の WHO ガイドラインを解説しています。

注) 本サマリーは、WHO 発信情報のインデックスとして役立てて頂くよう標題及び冒頭部分を仮訳しているものですので、詳細内容については、WHO ニュースリリース、声明及びメディア向けノートの原文をこちらからご確認下さい。

<https://www.who.int/news-room/releases>

<https://www.who.int/news-room/statements>

<https://www.who.int/news-room/notes>